

ご協力をお願いします

赤十字の人道活動は皆様方の

日本赤十字社活動支援費(日赤社費)で行われています

発行所 日本赤十字社徳島県支部
〒770-0044 徳島市庄町三丁目12番地1
TEL 088-631-6000
FAX 088-631-6100
URL <http://www2.tcn.ne.jp/~jrcawa1/>

平成23年12月発行 第26号

板東俘虜収容所跡地に 「赤十字ゆかりの地モニュメント」を設置 赤十字の人道精神のよりどころとして、世界へ発信し後世に語り継ぐ

第一次世界大戦時、捕虜となったドイツ兵を人道的に待遇し、「奇跡の収容所」と呼ばれた板東俘虜収容所。日本赤十字社徳島県支部では、人道的な事実が展開された同収容所跡地に、「赤十字ゆかりの地モニュメント」を設置し、その除幕式を行いました。

人道的な待遇で、地域住民とも交流

第一次世界大戦時、鳴門市大麻町の板東俘虜収容所(松江豊寿所長)では、博愛の心で捕虜となったドイツ兵の人権を最大限に尊重した施設運営が行われました。

板東の捕虜たちは、パンを焼き、新聞を発行し、楽器を演奏することなどが認められ、捕虜とは思えないほどの人間らしい生活が許されていました。

当時のドイツは技術・文化の両面で世界の先進国であったことから、ドイツ兵はさまざまな技術や文化を地元板東の住民にも伝えました。やがて住民は捕虜たちを「ドイツさん」と呼ぶほど交流が広がり、友情も芽生えました。

赤十字マークを掲げて、チャリティー演奏会を開催

そうした中、板東の捕虜たちがウラジオストックに収容されている仲間たちを思いやり、救済のためのチャリティー演奏会を開催。そのポスターに「人道・博愛」の象徴である赤十字マークが印刷されていました。

当時、厳しい待遇が当然であった日本の収容所において、捕虜が他国に収容されている同胞を思いやる行動が実践できたのも、板東の捕虜た



モニュメント設置協力者らとモニュメントの除幕を行い、完成を祝う
(写真は左から、小松橋一大塚製薬工場会長、泉理彦鳴門市長、近衛忠輝日本赤十字社長、藤原紀香赤十字広報特使、飯泉嘉門日赤徳島支部長、住友俊一赤十字有功会長)



ドイツ兵捕虜たちが行ったチャリティー演奏会のポスター

ちが人道的に扱われていたからこそ。

人道的な事実をモニュメントに刻み、後世へ伝える

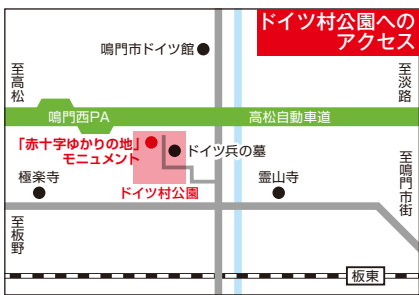
当支部では、チャリティー演奏会のポスターをモチーフとしたモニュメントを作製し、鳴門市の協力を得て、かつての板東俘虜収容所があった鳴門市ドイツ村公園(鳴門市大麻町松)へ設置しました。

去る9月8日、赤十字広報特使の藤原紀香さんなど関係者120名が出席し、除幕式を開催しました。

除幕に続き、藤原紀香さんが「板東で展開された心深い事実を世界に発信し、後世に語り継ぐため、ドイツ村公園を赤十字ゆかりの地とします。」と宣言。宣言書を板東小学校6年の美馬遼太君に手渡しました。



「赤十字ゆかりの地」を宣言する藤原紀香さん



紀香さん、乳児院で保育士体験

9月9日、藤原紀香さんは徳島赤十字乳児院で保育士の仕事を体験し、子どもたち36人と触れ合いました。

エプロン姿の紀香さんは、赤ちゃんを抱っこしながら満面の笑みであやしたり、哺乳瓶で授乳などを体験しました。

その後、リズム遊びや絵本の読み聞かせなど子どもたちと楽しいひとときを過ごした紀香さんは、「子どもたちは本



リズム遊びや読み聞かせなどで触れ合ったあと、みんなで記念撮影

当にかわかった。私の中の母性が揺れ動きました。」と笑顔で語っていました。

徳島赤十字乳児院とは

さまざまな事情により、家庭での養育が難しい乳幼児を24時間体制で養育する県内唯一の施設です。

子育てで困ったことや悩み事などがありましたら、お気軽に徳島赤十字乳児院(電話 0885-32-0555)へご相談ください。

また、親子を対象とした「ニコニコほっぺ」も毎月開催しています。詳しくは同院ホームページ(<http://www18.ocn.ne.jp/~t.nyuji/>)をご覧ください。

赤十字救護員と東日本大震災を語る

続いて、藤原紀香さんは徳島赤十字病院を訪問。東日本大震災で救護活動を行った当支部救護員と意見交換を行いました。

被災地へ派遣された医師や看護師などから報告を聞いた後、紀香さんも「被災地で赤十字マーク



大震災について意見交換する紀香さん(右)と救護員(左)

が被災者に勇気と希望を与えていることを肌で感じました」と語りながら、被災地で4回ボランティア活動を行った体験を紹介しました。その後、紀香さんは心臓カテーテル手術の様子などを見学し、日赤病院自慢の病院食を味わいました。

炊き出し支援活動に参加して

佐那河内村赤十字奉仕団

笠井 博美 さん

3月11日、あれから5ヶ月余りがたった8月下旬、赤十字から炊き出し支援の要請があり、参加させていただきました。

9月18日の早朝、日赤山形県支部とともに宮城県女川町の総合体育館避難所へ向かいました。

道中、今なお傷んだ家屋が建ち並び、人の気配はなく、青々と雑草が生い茂り庭木は赤く枯れ、沿岸地帯は地盤沈下で屋敷跡も分からず、何とも言えない悲慘な状況でした。

炊き出し支援隊は、両県の郷土料理でメニューを構成して提供。少しでも元気付けにと大きな声でメニューの紹介をしながら笑顔で提供しました。

2日目には顔見知りの方も増え、「とてもおいしかった、ありがとう。」とわざわざ伝えに来てくださる方もあり、両県の特産品を使った郷土料理は被災者の皆さんにはとても好評でした。目標達成で幸せな気分であっという間に完了しました。

帰路の車窓からみた電光掲示板に「おだづな！津波」と流れていました。「馬鹿にするな津波！負けなぞ！」という宮城の人々の心境がこの短い言葉に込められ、大きな力を秘めていることを知ると思わず涙がこぼれました。本当に東北の皆さんに頑張ってもらいたい。私たちが応援しますと思わずにはいられませんでした。

今回の数々の貴重な体験を私の宝とし、今後の活動に生かしていきたいと思いを強くしました。



一人一人に徳島の郷土料理「ならえ」を説明しながら提供する笠井さん



雨にもかかわらず、炊き出しテント前には長蛇の列

炊き出しメニュー



【9月18日昼食メニュー】
阿波牛の牛丼・そば米汁・
鳴門金時大学芋・
山形県郷土料理だし付冷奴



【9月19日昼食メニュー】
赤飯・徳島郷土料理ならえ・
山形いも煮・すだち・りんご
など

19日の「敬老の日」には、赤飯と山形の郷土料理「芋煮」に徳島の郷土料理「ならえ（酢の物）」などを奉仕団員の笑顔や元気とともに提供。赤飯を口にしたおじいちゃんらは、「こんな形で敬老の日を祝ってもらえるとは思ってもしなかった。被災してから赤飯を食べるのは初めて。本当においしい。」と目尻にしわを寄せながら笑顔で語ってくれました。

徳島・山形の郷土料理で、「敬老の日」を祝う
宮城県女川町で2回目の炊き出し
「こんなうんめえ牛丼、久しぶりに食べたさー」「芋煮は具沢山で本当にうまかったあー」
東日本大震災の被災者を継続的に支援しようと当支部では山形県支部と合同で、9月18日・19日の2日間、女川町総合体育館避難所で炊き出しを実施しました。



阿波牛の牛丼を炊き出す本県赤十字奉仕団員



カテーテルによる脳血管内治療の様子

頭を切らずに、脳の病気を治す、脳血管内（手術）治療

シリーズ 徳島赤十字病院 第2回 脳血管内治療科

徳島赤十字病院の診療科を紹介するシリーズ「徳島赤十字病院」。第2回目は、カテーテルによる治療が進む脳血管内治療科です。

医学の発達した現代でも、頭蓋骨を外して、脳の手術をする事には抵抗を感じる方も多いと思います。ところが近年、脳卒中の中でも、くも膜下出血や、脳梗塞では脳血管内治療が急速に進歩しております。これは、細くて柔らかいチューブを、大腿動脈（太もも）の血管に針を刺すような方法で挿入し、血液が流れている血管の中を通して、病気を起こした部分に到達し治療します。

血管内治療科部長 佐藤 浩一
脳腫瘍（脳動脈が風船状に膨らんだもの）では、この膨らんだ部分に細い（直径1mm以下）マイクロカテーテルを挿入し、柔らかい白金製のコイルで充填し出血を予防します。頸動脈の狭窄（血管が細くなっている状態）では、形状記憶したステント（金網状の筒）を、血管の内部に挿入し、この金網が自己拡張して血管を広げます。徳島赤十字病院における脳動脈瘤や頸動脈狭窄では、75%はカテーテルによる治療に移行しております。

赤十字セミナー「いのちを守る」を開催
東日本大震災での医療救護をはじめとした当支部の活動を県民の皆様に理解いただくため、鳴門市・阿南市の2会場で『赤十字セミナー「いのちを守る」』を開催しました。（台風15号の接近により三好会場は中止となりました。）
救護活動報告では、東日本大震災の被害の様子がスクリーンに映し出され、救護班の医師や看護師、介護福祉士、炊き出し支援活動に従事した赤十字奉仕団員等による活動報告が行われました。また、活動報告の後、徳島赤十字病院の日浅芳一院長をはじめとする各分野の医師による医療講演が行われ、生活習慣病への対処方法や最新技術を駆使した治療方法の紹介などの内容に興味深く聞き入った来場者からは多くの質問が寄せられました。



日浅芳一院長による医療講演の様子

大震災を教訓に子どもたちが防災訓練
青少年赤十字（JRC）加盟校の吉野川市立牛島小学校が6月7日、防災学習として当支部が地域へ設置している災害用移動炊飯器を用いた炊き出し訓練を実施しました。
訓練ではまず、赤十字の歴史や東日本大震災に対する当支部の災害救護活動について学んだ後、地域の赤十字奉仕団員の協力の下、非常用炊飯袋（ハイゼックス）を用いて炊き出し訓練を行いました。災害時に一度に多くの食事を簡単に、おいしく提供できる災害用移動炊飯器と非常用炊飯袋の使い方を体験した児童からは、「袋でお米が炊けることにびっくりした。」などの声が聞かれました。



地域奉仕団の方にもご協力いただきました

さまざまな形で、赤十字活動を支援

徳島県赤十字有功会

「徳島県赤十字有功会（住友俊一会長）」は、赤十字活動を支援する個人や法人によって組織された団体です。現在、個人161名、法人93社に加入いただき、様々な形で赤十字活動を力強く支援していただいております。

「防災教育に活かして！」



児童代表に災害用移動炊飯器を贈呈する阿波銀行の小松康宏総務部長

当支部が今年度の重点事業として取り組んでいる「企業の社会貢献活動と連携した赤十字活動の推進」の呼び掛けに、株式会社阿波銀行様から、災害用移動炊飯器設置のお申し出をいただきました。寄贈いただいた二台の災害用移動炊飯器は、徳島市中心部の内町地区に設置することになり、うち一台を内町小学校に設置しました。

去る9月8日、同校の体育館で贈呈式を行い、児童と保護者、地域の方々約200人が参加する中、児童代表から「南海地震に備え、移動炊飯器を使った防災訓練に取り組みます。本当にありがとうございました。」とお礼が述べられました。贈呈式終了後には、応急手当や負傷者搬送法についての訓練も実施し、児童たちからは「今度は炊き出し訓練もしてみたい。」と防災意欲に溢れる声が聞かれました。

有功会献血推進研修会を開催



血液を使用する病気などについて、参加者に分かりやすく説明をする後藤副院長

去る8月18日、徳島県赤十字有功会が、法人会員企業と県内の各大学の献血推進総括者・担当者を対象に、献血推進研修会を開催しました。

これは、企業・大学内における献血への理解促進と献血協力者の増加を図るとともに、成分献血協力者の安定的な確保と緊急時の献血支援体制の構築を目的としています。

「子供たちに思いやりの心を」

有功会から子供たちに絵本を贈呈

去る5月31日、徳島県赤十字有功会から、青少年赤十字（JRC）へ加盟している県内の小学校へ絵本が贈呈されました。

有功会の図書贈呈は、当支部が創立120周年を迎えた平成19年から実施しているもので、これまでに赤十字の創設者「アンリー・デュナン」や赤十字に関する書籍、地雷模型などが寄贈されました。

今回は、日本赤十字社名誉副総裁である秋篠宮妃紀子さまが構成・翻訳された、動物の家族たちがぐりひろげる心温まる絵本『ビーバーのベン』が贈呈されました。

当支部で行われた贈呈式では、住友俊一有功会長から「思いやりの心を育てる教材として役立ててください。」と、青少年赤十字指導者協議会 石田隆志校長（牛島小学校）へ絵本が手渡されました。



住友俊一有功会長（左）から青少年赤十字指導者協議会 石田隆志校長（右）へ絵本が手渡されました



今回贈呈された絵本『ビーバーのベン』動物の生態についても詳しく学べる絵本になっています

第3回目の開催となる今回は、「災害」

をテーマに東日本大震災に対する当支部の災害救護活動報告と、災害時における血液確保について、研修を行いました。

また、特別講演として、徳島赤十字病院の後藤哲也副院長が「臨床現場における血液の大切さ」というタイトルで講演し、医療現場の最前線で患者さんに輸血を行っている医師の立場からの興味深い話に、参加者は真剣に聞き入っていました。



被災地の状況や救援活動の報告に熱心に耳を傾ける参加者

遺産の寄付をお考えのみなさまへ

近年、大切な方を亡くされた方から、「故人の遺産を社会のために寄付したい」「自分で築いた財産を相続させた後の余剰財産を寄付したい」という相談やお申し出が増えていきます。

日本赤十字社では、こうした尊いご意志に応えるために、遺贈による寄付・相続財産の寄付を賜わっています。

○遺産による寄付

遺言書の内容により、遺産の受取人やその内容を指定することができます。（遺言による相続は、民法が定めている法定相続の規定よりも優先されます）

この遺言による方法で、財産の一部の受取人として日本赤十字社徳島県支部を指定することができます。

○相続財産による寄付

ご遺族の方が相続された財産を相続税の申告期限内（相続開始から10ヶ月以内）に日本赤十字社にご寄付いただいた場合、その寄付された財産には相続税がかかります。（税制上の優遇措置が適用されます。）

香典返しのご寄付や遺産のご寄付などのご相談は、
日本赤十字社徳島県支部事務局 総務課 TEL:088-631-6000 まで

様々な形での「ご寄付」を赤十字へ

次の方々から香典返しに替えて赤十字へご寄付をいただきました。

佐野 昭子 様（徳島市三軒屋町）
真鍋 文雄 様（徳島市富田橋）
岡本 武由 様（小松島市小松島町）
新居 啓司 様（阿波市阿波町）
※他匿名希望の方5名

ご意志に沿い、赤十字の人道活動に有効に活用させていただきます。

「香典返し」の「ご寄付」について

感謝の気持ちとして「お返し」をするのは、伝統的な日本の習慣です。

タオルやお茶などの日用品を贈ることが一般的なようですが、最近、こうした品物を贈るかわりに赤十字の人道活動へ寄付したいとお申し出が増えています。赤十字が挨拶状の作成・発送等のお世話をいたします。

●20万円以上 銀色有功章の贈呈・挨拶状作成等のお世話
●50万円以上 金色有功章の贈呈・挨拶状または新聞掲載のお世話

赤十字への寄付は、所得税・法人税・相続税の控除対象となります。



Together for humanity

人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社 スローガン

複数回献血クラブ会員募集

複数回献血クラブって？

血液が不足した時、個別にメールで献血を呼びかけ、年間を通じた血液の安定確保を図るために日本赤十字社により設置されたクラブです。成分献血・400mL献血にご協力いただける方は、ぜひモバイル会員登録をお願いします。



QRコード



QRコード非対応の方はこちらへ直接空メール
→ abo@kenketsu.jp

クラブ会員登録の手順

携帯でQRコードを
読み取って下さい

メールアドレスが表示されます

空メールを送信して下さい

返信メールに表示されたURL
から情報登録を行って下さい



ご登録お待ちしております☆

会員特典として♡

- 新規入会者には特製タオル&シャーププレゼント!(右写真)
- 過去の献血記録を確認できます!
- けんけつちゃんの待ち受けを無料ダウンロード!
- 着信メロディ無料ダウンロード!(有名アーティスト続々配信中☆)
- 会員限定デザイン献血カード!(けんけつちゃん、世界地図)
- 日頃の献血協力への謝意を示す「献血感謝のつどい」開催お知らせ!



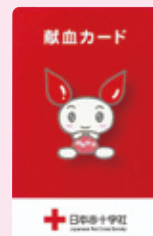
★特製タオル&シャープ★

などなど

会員限定デザイン 献血カード

けんけつちゃん

世界地図



平成23年度 献血推進ポスター入選作品



中学生・高校生に献血へより興味・関心を持っていただくため、献血推進ポスターを募集しました。多くの学生から応募をいただき、厳正な審査の結果、最優秀賞は生光学園高等学校1年、内藤 朝恵さんに決定しました。



最優秀賞

生光学園高等学校 1年
内藤 朝恵さん

優秀賞



貞光中学校 2年
平尾 大河さん



明神小学校 6年
松岡 雄也さん



阿波中学校 3年
坂東 利奈子さん



阿波中学校 3年
和田 梨沙さん



吉野川市立 川島中学校 3年
真田 颯希さん



たくさんの応募ありがとうございました。
来年度も引き続き募集を行う予定ですので、
ご応募お待ちしております。

<日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します>

・日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-6000 ・徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ノ口103 TEL:0885-32-2555
・徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町新開4-1 TEL:0885-32-0903 ・徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-3200
・徳島赤十字乳児院 小松島市中田町新開12-2 TEL:0885-32-0555